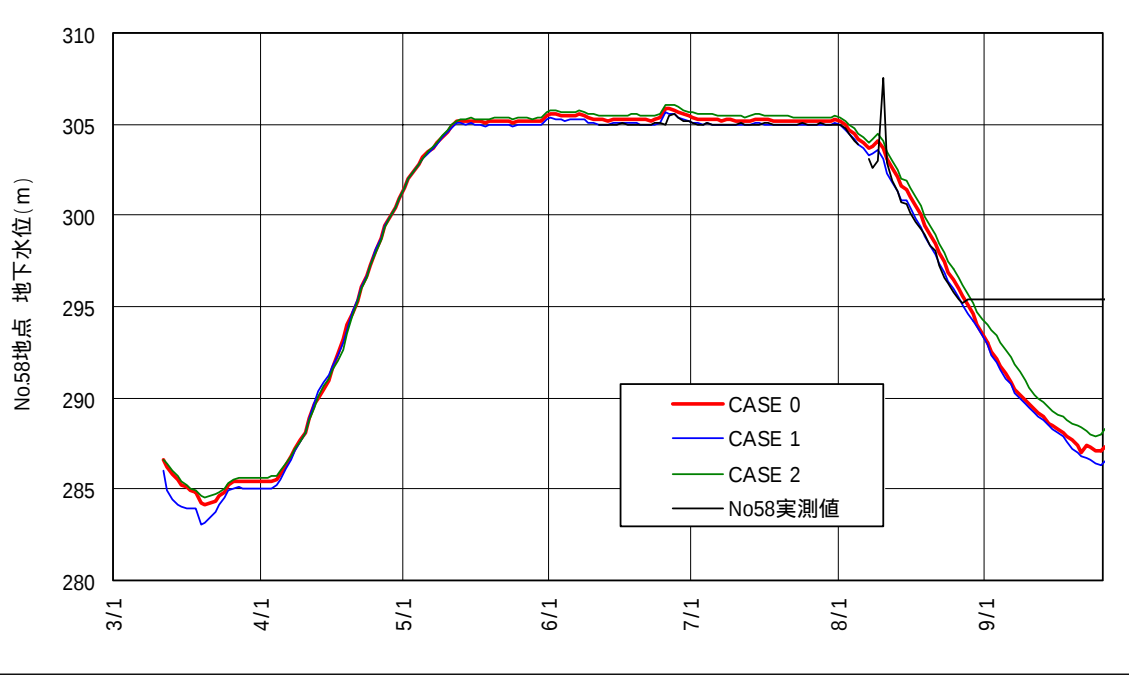
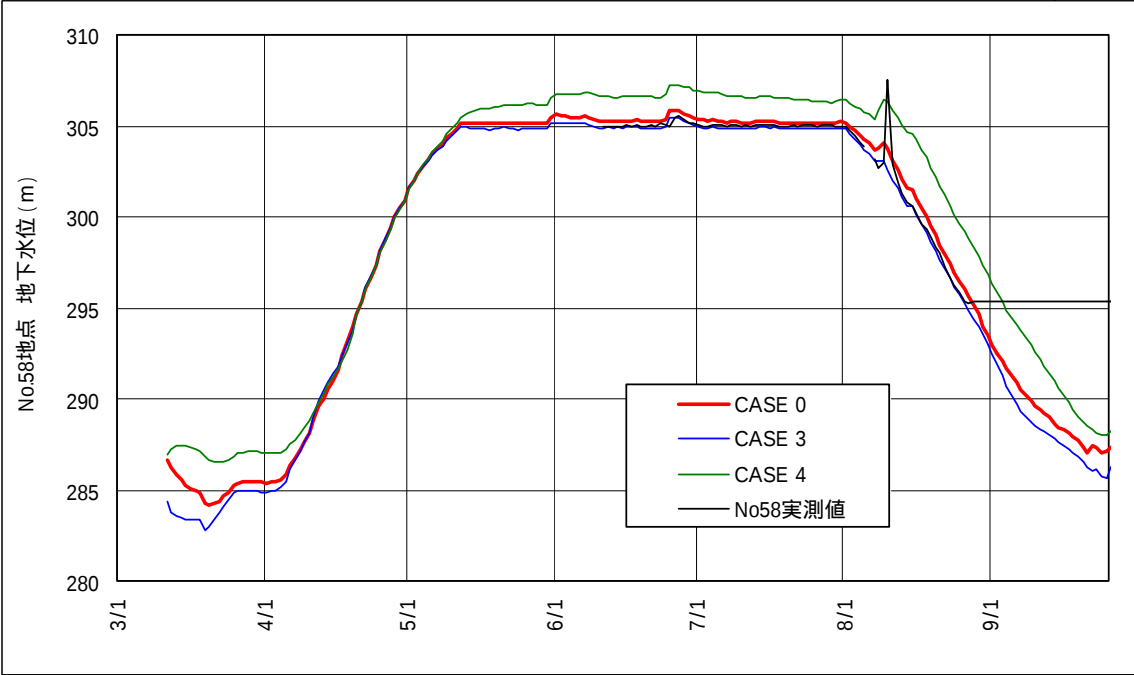
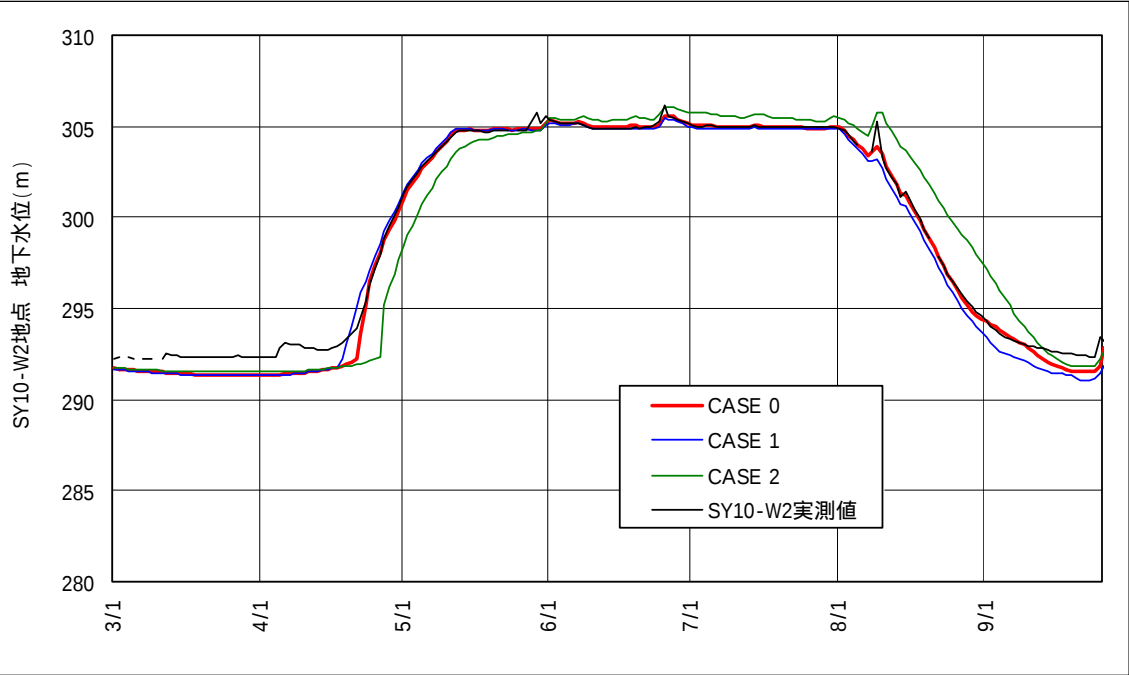
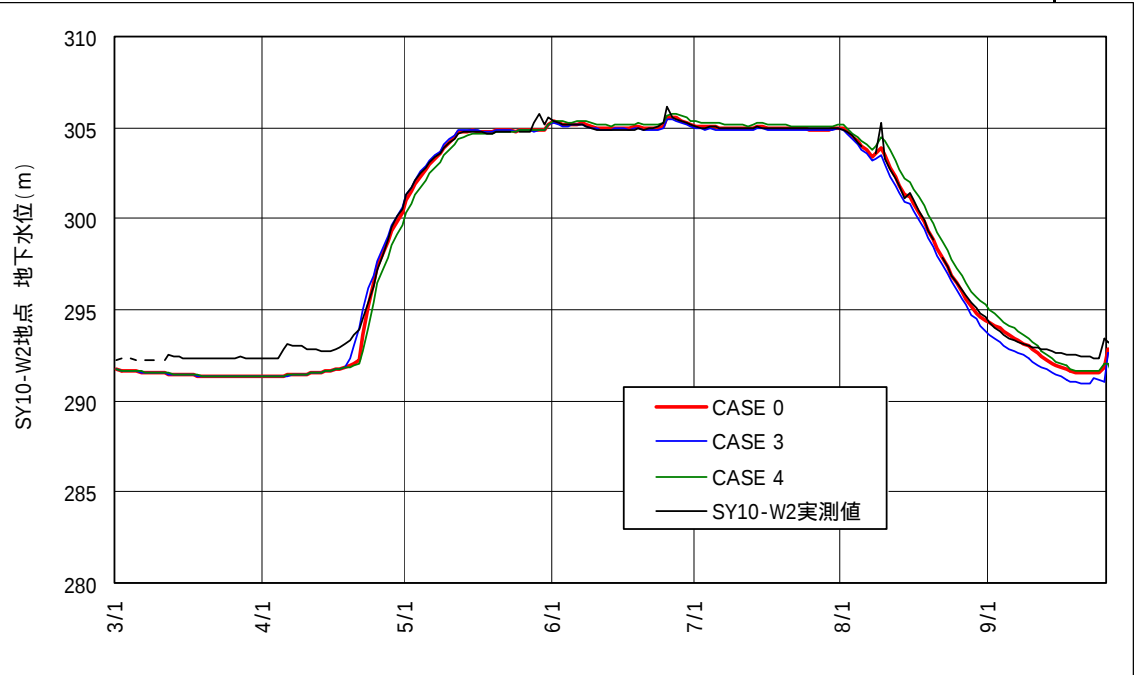
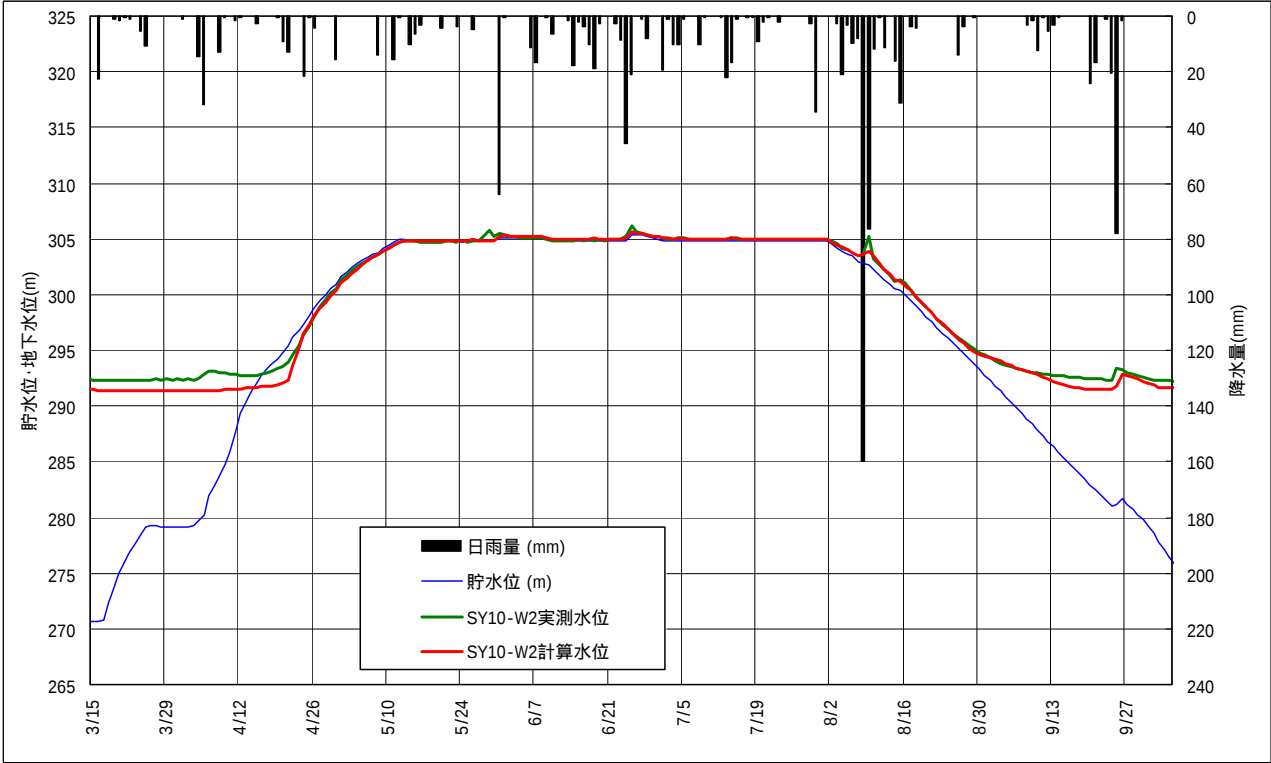
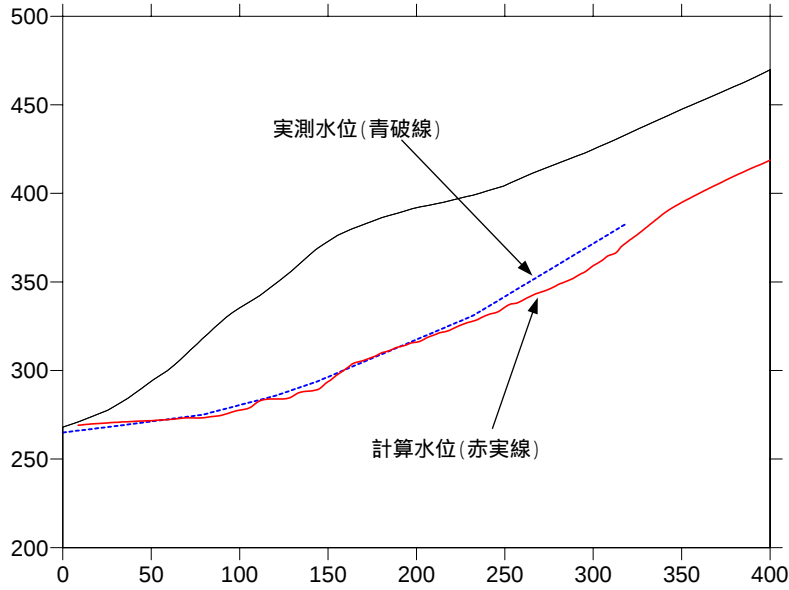


. 対策工の基本検討		
事 項	要 点	備 考
2 . 浸透流モデルの構築	(1) 浸透流解析の目的 白屋地区の地下水流動環境を考慮した地下水浸透流モデルを構築し、ダム貯水（運用）時の斜面安定性評価に係る基礎資料を得る。 (2) 実施手順 右のフロー図に示す。 (3) モデルの概要 モデル種類：断面二次元 飽和・不飽和浸透流モデル 計算方法：有限要素法 解析断面：1 測線、2 測線 計算条件：降雨およびダム貯水位変動を考慮し、日単位で計算 検定計算期間：平成 15 年 3 月～9 月（今回の試験湛水期間）	

. 対策工の基本検討		
事 項	要 点	備 考
	1 測線モデルでの感度分析結果 (左:CASE1 および 2、右:CASE3 および 4)	
	No58地点 地下水位 (m)  No58地点 地下水位 (m) 	
	2 測線モデルでの感度分析結果 (左:CASE1 および 2、右:CASE3 および 4)	
	SY10-W2地点 地下水位 (m)  SY10-W2地点 地下水位 (m) 	

. 対策工の基本検討		備 考
事 項	要 点	
	(5) モデルの現象再現性 CASE 0 の透水係数を与えた最終モデル (2 測線) での地下水位変動および平面分布の再現状況は、以下のとおりである。   貯水していない状態での地下水面分布で比較 (6) ダム貯水位低下時の残留率予測 最終モデルを用いて、現況 (無対策) の状態でダム貯水位を急低下させた場合のシミュレーション計算を行い、地すべりブロックおよび緩み域内の間隙水圧の残留傾向を予測した。 1 測線 (緩み域) と 2 測線 (地すべりブロック) の残留率は、右図のように貯水位低下速度の上昇とともに大きくなると予想される。 なお、計算の収束性に関わるパラメータ (時間増分 Δt、許容誤差など) の違いが予測計算結果に影響を与えていないことを確認している。 